

令和3年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第9号（果樹）

令和3年9月17日発表（対象期間 令和3年9月17日～10月下旬）

●PCでアクセス

広島県 ひろしま農業情報

検索

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/nougijutsu/>

※次回の予報発表は令和4年3月上旬ごろです。

●スマホでアクセス

ひろしま農業情報 QRコード →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151 東広島市八本松町原6869

電話：082-420-9662（直通）

1-（1）

かんきつ病害虫の現況と予報（概要）

病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項
黒点病	ウンシュウ：やや少 ネーブル：並 レモン：並	やや多	● 前回防除からの累積降水量が250mmを超える、あるいは前回防除から1 か月経過したら、黒点病蔓延阻止のため再度防除を行う。 ● 樹上の枯れ枝および園内の剪定枝は伝染源となるため除去し、園外で処分する。
かいよう病	ネーブル：少 レモン：少	やや少	● 台風等の強風雨前の防除を徹底する。 ● ミカンハモグリガ食害痕から感染しやすいので、食害された夏秋梢は切除する。 ● 発生源となる罹病葉、枝は速やかに除去し、圃場から持ち出す。
ミカンハダニ	並	やや多	● 薬剤が葉裏にもかかるよう丁寧に散布する。 ● 特に裾なり、内なり等、薬剤のかかりにくい位置にある果実での発生に注意する。
ミカンサビダニ	少	やや少	
カイガラムシ類	やや少	やや少	● 移動性が低く圃場の一部に集中して発生することが多いため、寄生部位を中心に周辺の枝葉果実の状況を確認し、見つけ次第捕殺する。 ● 発生園ではマシン油乳剤による越冬期防除の準備を行う。

【表の見方について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

「多」：1番目（最多年）と同程度以上

「やや多」：2～3番目と同程度

「並」：4～7番目と同程度

「やや少」：8～9番目と同程度

「少」：10番目（最少年）と同程度以下

①黒点病	現況	ウンシュウ：やや少 ネーブル：並 レモン：並	予報	やや多
予報の根拠 (+) : 多発要因 (±) : 平年並み (-) : 少発要因	●巡回調査において、ウンシュウでは平年よりやや少ない発生、ネーブル・レモンでは平年並みであった(±)。 ●向こう1か月の気温は高い確率が70%(+)、降水量および日照時間とも平年並みである確率が40%である(±)。			

着色初期



完全着色期

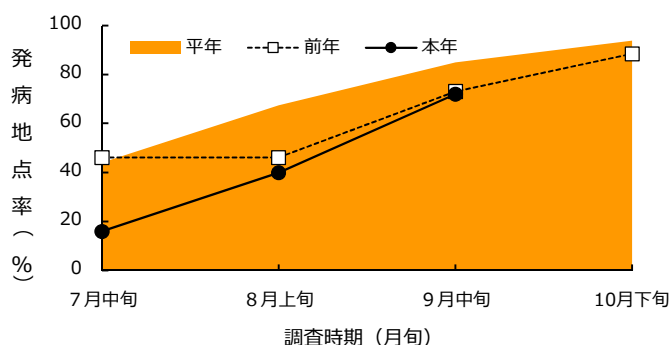


【防除上の注意事項】

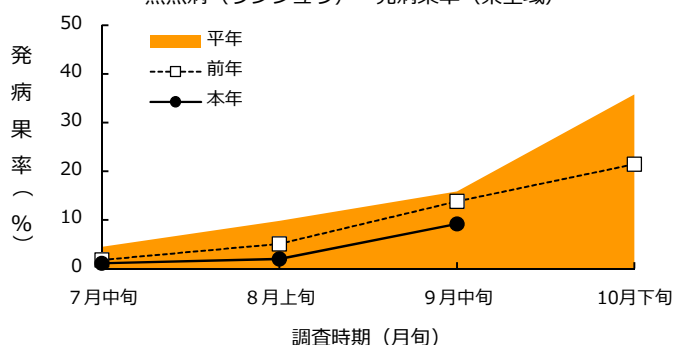
- 着色初期は病斑が目立たないため、被害に気づきにくい。こまめに園内を観察し、早期発見・防除に努める。
- 罹病程度の大きい葉および果実、枯れ枝の除去を徹底する。
- 収穫期が近いため、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意する。

【巡回調査データ】

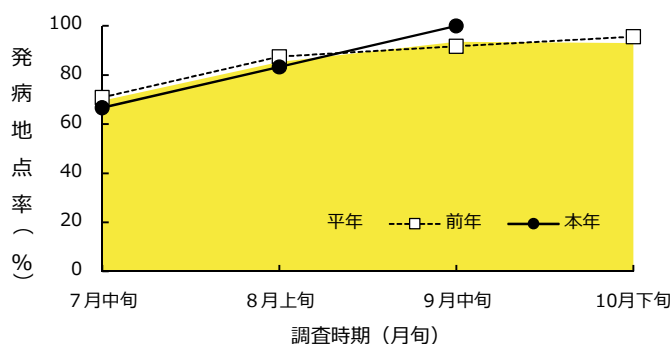
黒点病（ウンシュウ） 発病地点率（県全域 25地点）



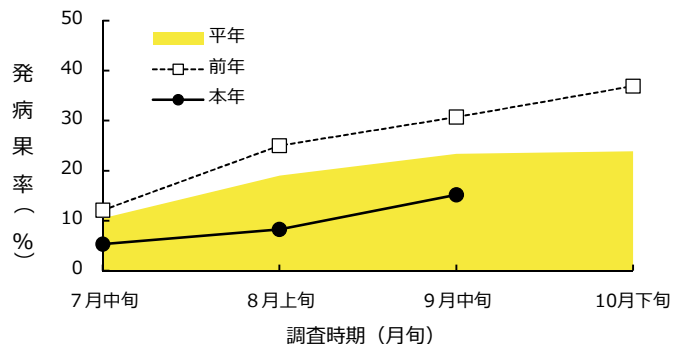
黒点病（ウンシュウ） 発病果率（県全域）



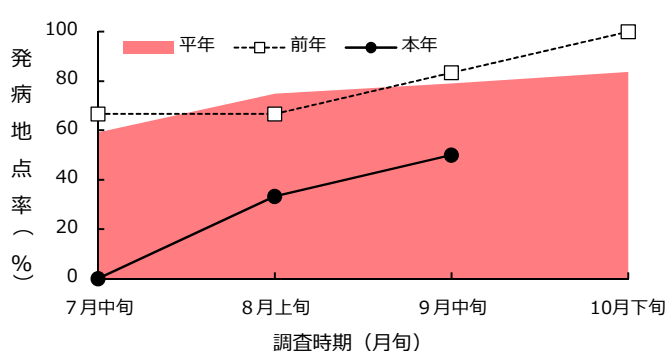
黒点病（レモン） 発病地点率（県全域 24地点）



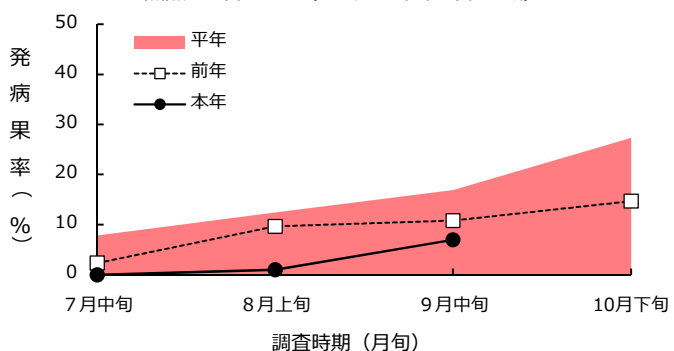
黒点病（レモン） 発病果率（県全域）



黒点病（ネーブル） 発病地点率（県全域 6地点）



黒点病（ネーブル） 発病果率（県全域）



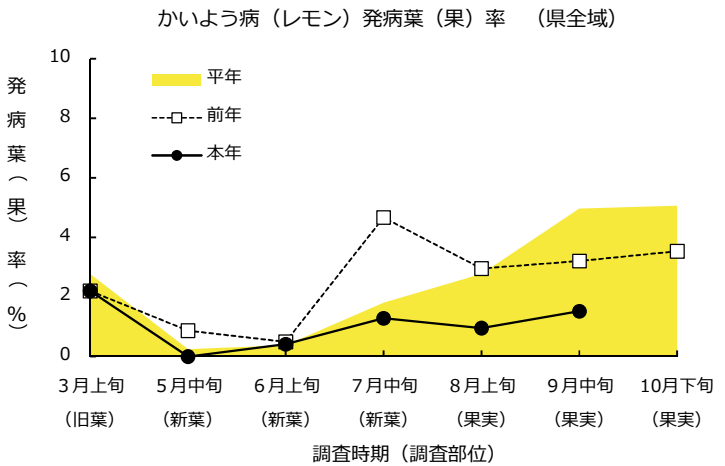
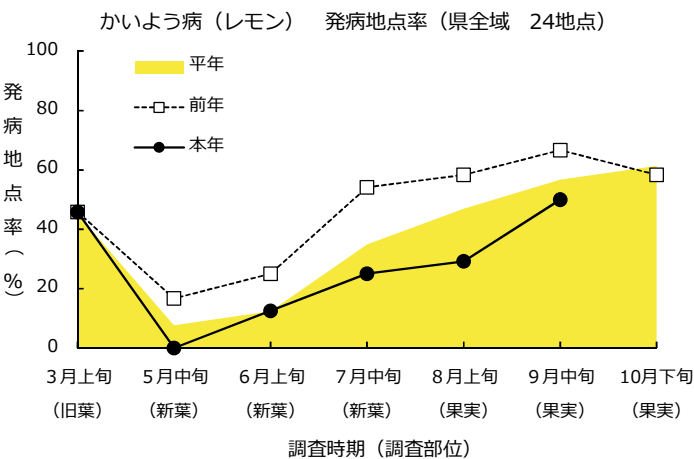
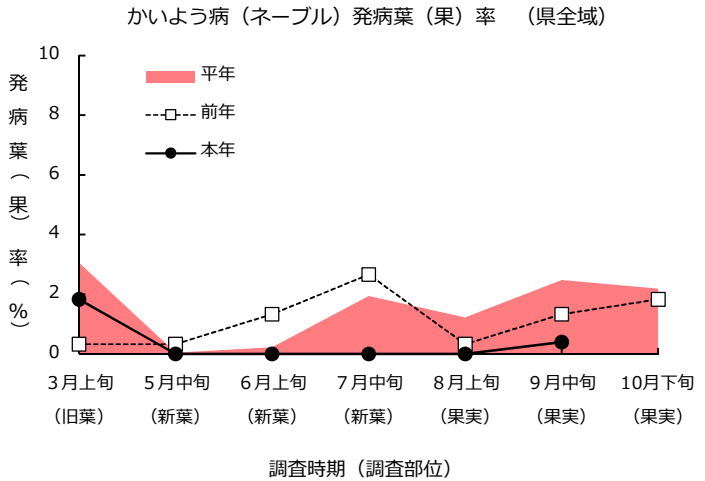
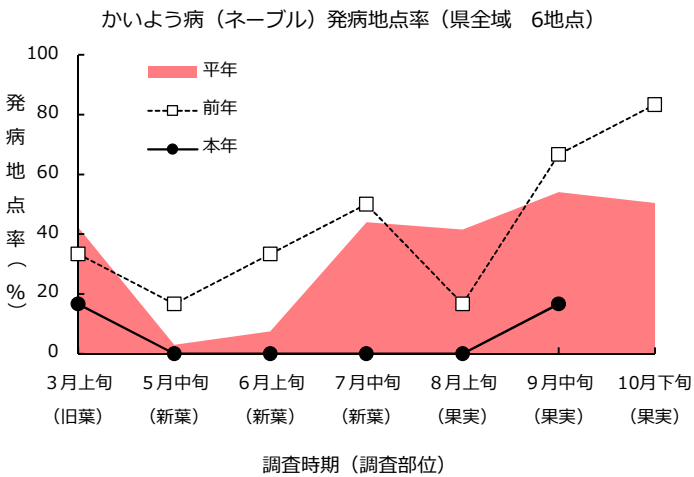
②かいよう病		現況	ネーブル：少 レモン：少	予報	やや少
予報の根拠		●巡回調査において、ネーブルおよびレモンでの発生は平年より少なかった（－）。 ●向こう1か月の気温は高い確率が70％（＋），降水量および日照時間とも平年並みである確率が40％である（±）。			
（＋）：多発要因 （±）：平年並み （－）：少発要因					



【防除上の注意事項】

- ネーブル，レモン，「はるみ」などの品種は発病しやすいので注意する。
- 窒素肥料を多施用すると，夏期以降に新芽の発生が増え，感染を助長するため，肥培管理を適切に行う。

【巡回調査データ】



③ミカンハダニ	現況	並	予報	やや多
---------	----	---	----	-----

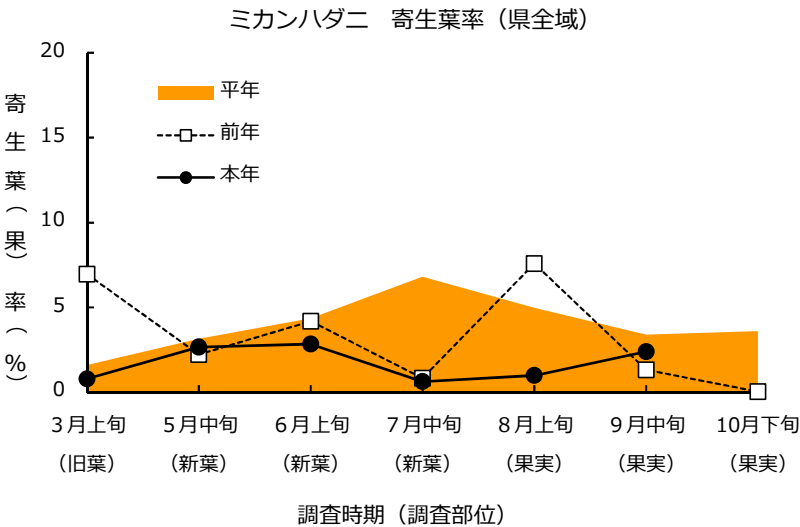
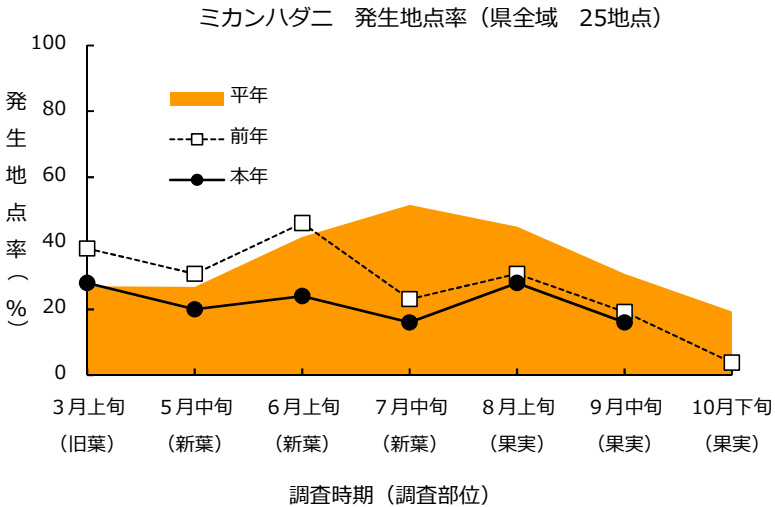
予報の根拠	●巡回調査において、ミカンハダニの発生は平年並みであった（±）。 ●向こう1か月の気温は高い確率が70%（+），降水量および日照時間とも平年並みである確率が40%である（±）。
(+) :多発要因	
(±) :平年並み	
(-) :少発要因	



【防除上の注意事項】

- 抵抗性個体の出現を防ぐため，同系統の薬剤の連用は避ける。
- 薬剤が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

【巡回調査データ】



①チャノキイロアザミウマ

県内に設置している黄色粘着板トラップへの本虫の誘引数は、露地ブドウ園では平年並み、カンキツ園では平年より低く推移している。特にカンキツ園での発生は少ない。微細な虫で、発生に気付くのが遅れやすいため、引き続き注意し、表1を参考に、予測日の7日前～ピーク当日に防除を行う。

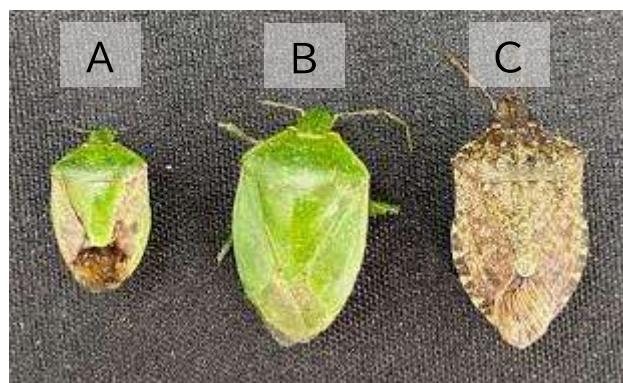


表1. チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日

今後の気温	第7世代発生ピーク予測日
平年より高い (+1℃)	9月25日
平年並	9月26日
平年より低い (-1℃)	9月27日

※生口島アメダスデータに基づく

②果樹カメムシ類



A : チャバネアオカメムシ
B : ツヤアオカメムシ
C : クサギカメムシ

広島県内におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの累積誘殺数は、9月第2半旬の時点で県内全域において「並」以下となっている。今後、台風通過に伴い果樹園への飛来が増加する可能性もあるため、ほ場内の見回りを定期的に行い、飛来が認められた場合は速やかに防除を実施する。

表2. 各調査地点におけるチャバネアオカメムシ累積誘殺数（5月第1半旬～9月第2半旬）

設置地点	チャバネアオカメムシ累積誘殺数（頭）				
	本年	現況	平年※1	多発年※2	多発年以外※3
東広島市安芸津町	98.7	少	789.2	1712.0	393.8
福山市神辺町	135.9	並	114.0	180.2	85.7
世羅郡世羅町	315.6	並	538.8	1623.8	201.0
庄原市東城町	15.0	少	153.3	395.4	49.6
庄原市高野町	41.9	並	242.5	716.7	31.2

※1 各調査地点の平年とは、過去10年の平均を示す。

※2 多発年とは、注意報を発表した年（平成24、26、令和2年）の平均値を示す。

※3 多発年以外とは、平成23年以降で、平成24、26、令和2年を除いた年の平均値を示す。

【中国地方 1 か月予報】

(広島地方気象台9月16日発表, 9月18日から10月17日までの天候見通し)

- ・天気は平年に比べて晴れの日が多いでしょう。
- ・向こう1か月の平均気温は, 高い確率が70%, 降水量は, 平年並みまたは少ない確率が40%, 日照時間は, 平年並みまたは高い確率が40%です(図1)。
- ・週別の気温は, 高い確率が1週目は80%, 2週目は70%です。3~4週目は50%(図2)です。

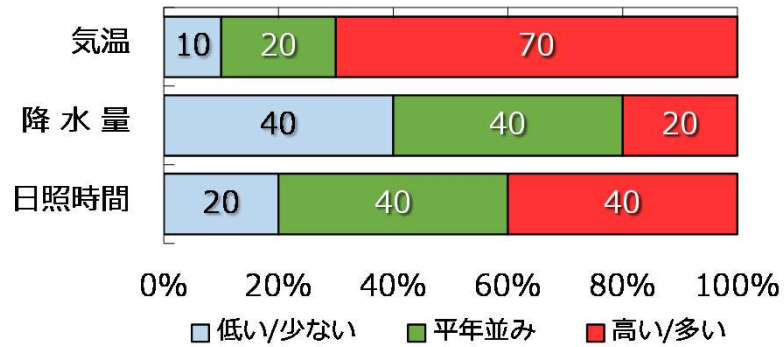


図1. 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率 (%)

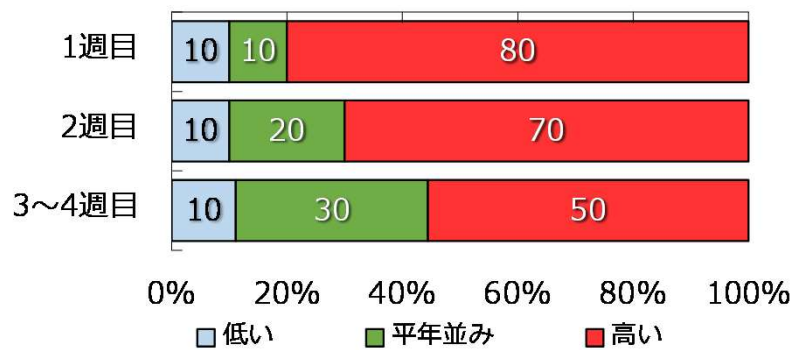


図2. 向こう1か月の気温経過の各階級の確率 (%)